

テーマ : ESG投資について

「ESG」とは

ESGとは、環境 (Environment) ・社会 (Social) ・ガバナンス (Governance) の頭文字を取ったもので、企業の長期的な成長のためにはESGの3つの観点が必要だという考え方であり、SDGs即ち「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」とほぼ同義である。SDGsは、2015年の国連サミットで提唱されたもので、具体的な17の目標が掲げられており、これを表徴するバッヂも最近よく目にする。ESGは、成長至上主義によって環境問題、所得格差などを引き起こした反省に立って、その企業版として提唱された目標であるといえることができる。

ESG投資

- ① ESGは財務情報ではないが、近時この観点から投資行動を決定するという動きがより一般的になっており、「ESG投資」・「社会的責任投資」(SRI) ・「持続可能な投資 (Sustainable Investment)」などと言われる。即ち、利益至上主義に基づく経営では環境問題、労働問題等を引き起こして長期的な成長が望めないという考え方に基づき、国連環境計画 (UNEP) と国連グローバル・コンパクト (UNGC) が主導して国連責任投資原則 (PRI) が定められ、世界で1,500以上の機関投資家がこれに賛同している。
- ② 現在、期間投資家が「ESGインデックス」を導入して、ESGの達成度に応じて投資先の選定及び投資先に対する議決権行使基準とすることが一般化しつつあり、わが国でも年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) がESGインデックスを導入済みである。さらに、社債の格付けなどにも影響を与えつつある。
- ③ 具体的ESG投資の種類としては、1)ネガティブ・スクリーニング 2)国際規範スクリーニング 3)ポジティブ・スクリーニング(ベスト・イン・クラス) 4)サステナビリティ・テーマ投資 5)インパクト・コミュニティ投資 6)ESGインテグレーションなどがあるとされ、議決権行使も投資の1形態であると言われている。

実務上の留意点

近時、企業における働き方改革への取り組みが急ピッチで進んでおり、更には、産業構造の脱炭素化の動きも顕著である。これらの動きはいずれもESGの観点から推進されたものであり、ガバナンスについては、日本版ステューワードシップ・コード (SSC) に基づく株主との長期的エンゲージメントもESGの観点から推進されていくものと予想される。いずれにせよ、今後、ESG投資がスタンダード化することは不可避であり、環境、社会 (特に労働環境の改善)、ガバナンスについての早急な対応・改善が急務である。

上記問題についての詳細のお問い合わせは当事務所までお願いいたします。

なお、アクトワンリーガルレポート vol.79 は、「ファクタリング規制の動向」(21C31)の予定(2021/3 発行予定)としております。 以上